

戸建て住宅における駐車空間の使いこなしに関する研究 その2
：高岡市吉久における使いこなしの実態と空間・居住者特性の関係

地方住宅地 生活景 生活領域
あふれ出し カーポート 地域コミュニティ

正会員 ○北島 陽貴* 正会員 森 豪大***
正会員 藪谷 祐介** 正会員 梶田 美結****
正会員 安倍 ひより*** 準会員 田中 千晴*****
正会員 重山 隼人***

1. 研究の背景と目的

本研究は、使いこなしの特性とそのメカニズムを明らかにすることを目的とする。前編では、使いこなしの実態と空間や居住者特性を整理し、物的改変が用途転用に伴って生じることを明らかにした。本編では、使いこなしの実態と空間や居住者の特性との関係を明らかにする。

2. 使いこなしと空間・居住者特性との関係

本章では、前稿で明らかにした高岡市吉久における駐車空間の使いこなしの実態と空間・居住者の特性とのクロス分析から、それらの関係を考察する(表1)。なお、用途転用の実態と空間特性の関係のみ、観察調査からみた使いこなし(快適化)とのクロス分析も行う。

2-1. 使いこなしと駐車空間の空間特性

本節では、使いこなしの実態と空間タイプのクロス分析からその関係を考察する。「用途転用」では類型4【媒介・広大型】の割合が高いため、用途転用は屋根や媒介要素、空間にゆとりのある空間特性で生じやすいと推察される。用途転用の分類に着目すると、「交流内包」では類型1【非媒介・歴史型】の割合が高いため、交流内包は来訪者の多い公共性の高いエリアに位置し、屋根や媒介要素がない空間特性で生じやすいと推察される。「趣味・家事」では類型2【接続・非歴史・狭隘型】の割合が高いため、趣味・家事は狭隘な前面道路の公共性の低いエリアに位置しており、住宅内部との接続性を有し、閉鎖性が高い空間特性で生じやすいと推察される。

また、「物的改変」では類型4【媒介・広大型】の割合が高いため、物的改変は用途転用と同様に屋根や媒介要素、空間にゆとりがある空間特性で生じやすいと推察される。物的改変の分類に着目すると「結び内包」や「掛け内包」では、類型4【媒介・広大型】の割合が高いため、類型1【非媒介・歴史型】の割合が低いため、結び・掛け内包は屋根や媒介要素がある空間特性で生じやすいと推察される。

2-2. 使いこなしと居住者の属性

本節では、使いこなしの実態と居住者属性のクロス分析からその関係を考察する。用途転用では転居における「地域外から」の割合が高いため、用途転用は転居によって生活が大きく変化する居住者特性で特に生じやすいと推察される。用途転用の分類に着目すると、「交流内

包」では年齢層における「高年後期」や外出頻度における「低頻度」の割合が特に高いため、交流内包は在宅時間が長い高齢の居住者で生じやすいと推察される。「趣味・家事」では家族構成(子ども・高齢者)における「なし」の割合が特に高いため、趣味・家事は子育てや介護が無く生活時間にゆとりのある居住者で生じやすいと推察される。

また、「物的改変」では、休日の外出頻度における「高頻度」の割合が特に高いため、外出頻度が高く屋外活動が活発な居住者の割合が高いと言える。それによって駐車空間で生活領域が形成されやすいことで物的改変が生じやすいと推察される。物的改変の分類に着目すると、「掛け内包」では休日の外出頻度における「低頻度」の割合が特に高いため、外出頻度が低く屋外活動が活発でない居住者特性の割合が高いと言える。それによって駐車空間で生活領域が形成されにくいと推察される。やや煩雑であると考えられる掛け内包が生じやすいと推察される。

2-3. 使いこなしと居住者の意識

本節では、使いこなしの実態と居住者意識のクロス分析からその関係を考察する。なお、居住者意識の【自己親和性】は自分らしさによる愛着、【交流性】は人との繋がりによる愛着、【環境性】は光・風環境の意識、【景観性】は他者から見られる意識や町並みへ貢献意識を表すものである。「用途転用」では【交流性】の割合が高いため、用途転用によって地域コミュニティを育む生活領域が形成され、人との繋がりによる駐車空間への愛着が高まると推察される。さらに、用途転用の分類に着目すると、「交流内包」では【交流性】が特に高いため、人との繋がりによる駐車空間への愛着が特に高まると推察される。「趣味・家事」では【自己親和性】が高いため、自分らしさによる駐車空間への愛着が高まると推察される。

また、「物的改変」では【自己親和性】と【交流性】が高いため、物的改変によって自分らしさや人との繋がりによる駐車空間への愛着が高まると推察される。物的改変の分類に着目すると、「製作内包」では【自己親和性】と【景観性】が特に高く、自分らしさによる愛着が高まり、景観に配慮されている一方で、「掛け内包」では【自己親和性】と【交流性】が特に低く、【環境性】と【景観性】も低いため、単に物を置く収納として使われていると推察される。

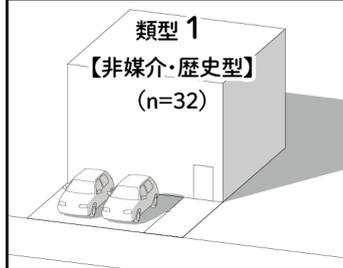
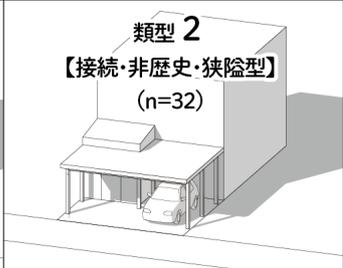
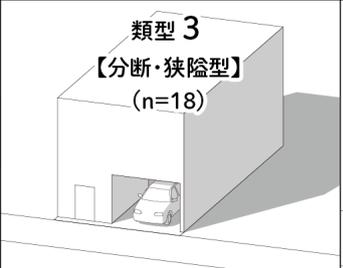
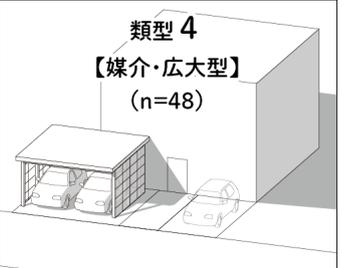
3. まとめ

用途転用は地域外からの転居によって生活に大きな変化が生じる居住者と、屋根・媒介要素と空間にゆとりのある空間特性の組み合わせによって生じやすく、物的改変は転用に伴って生じやすい。つまり、媒介要素やゆとりのある半屋外空間としての駐車空間が居住者の生活スタイルの変化を許容することで用途転用が生じていると言える。さらに、それをきっかけに地域コミュニティを育む生活領域が形成され、人との繋がりなどによる駐車空間への愛着が高まり、生活景が醸成される連鎖が生じる。特に、交流内包の用途転用では、公共性が高いエリア

に位置し、屋根や媒介要素がない空間特性と在宅時間が長い高齢者の居住者の組み合わせによって生じやすい。また、地域コミュニティを育む生活領域が形成されることで、人との繋がりによる駐車空間への愛着が高まる。趣味・家事の用途転用では、狭隘な前面道路と住宅との接続性や閉鎖性の高い空間特性と生活時間にゆとりがある居住者の組み合わせによって生じやすく、自分らしさによる駐車空間への愛着が高まる。一方で、掛け内包の物的改変では屋根と媒介要素の空間特性と外出頻度が低く屋外活動が活発ではない居住者が組み合わせることで、単なる収納として使われ、駐車空間への愛着が低下する。

表1 使いこなしの実態と空間・居住者の特性の関係

諸項目		使いこなし	用途転用	交流内包(快適化)	趣味・家事	趣味のみ	家事のみ
空間特性	アンケート調査からみた用途転用		△類型4 ▽類型1	▲類型1 ▼類型2	▲類型2 ▼類型1 / ▽類型4	△類型4 ▽類型1	
	観察調査からみた用途転用			△類型4			
居住者の属性	年齢層		△中年期 ▽高前期	▲高後期 ▼高前期 / ▽中年期	△中年期 ▽高後期	△壮年期 ▽中年期	△高前期
	居住年数		▽30年以上	△30年以上 / ▽10~19年	▽20~29年		△20~29年 / ▽30年以上
	転居		▲地域外から / ▼転居なし				
	働き方				△自宅外勤務 / ▽無職等		
	休日の外出頻度		▽低頻度	▲低頻度 / ▼高頻度		△中頻度 / ▼低頻度	▽中頻度
	家族人数				△2人 / ▽5人以上	△4人 / ▽3人	
	家族構成(世帯)		△核家族	▽夫婦	△夫婦 / ▽二世帯	△二世帯	
家族構成(子供・老人)			△子供のみ / ▽なし	▲なし / ▽高齢者のみ	△子供のみ / ▽なし	△高齢者のみ	
居住者の意識			▲交流性 △自己親和性 / ▽環境性	▲景観性, 交流性, 環境性	△自己親和性, 交流性	▽景観性	▽環境性 ▼交流性
諸項目		使いこなし	物的改変	製作内包	結び内包	掛け内包	置くのみ
空間特性			△類型4		▲類型4 / ▽類型1, 2	▲類型4 / ▼類型1	▲類型1 / ▼類型4
居住者の属性	年齢層				△高前期	△中年期, 高前期 ▼高後期	
	居住年数			△30年以上	△10~19, 20~29年 ▼30年以上	△20~29年 ▽30年以上	
	転居			△転居なし	△地域外から ▼転居なし	▲地域内から ▽転居なし	
	働き方						
	休日の外出頻度		▲高頻度 / ▽中頻度			▲低頻度 / ▽高頻度	
	家族人数		▽2人	▽1人	▲1人 / ▽2人, 4人以上	△4人	
	家族構成(世帯)			▽単身者	▲単身者 / ▽夫婦, 二世帯	△夫婦 / ▽核家族	
家族構成(子供・老人)					▽子供・高齢者		
居住者の意識			△自己親和性, 交流性 ▽環境性	▲自己親和性, 景観性		▽環境性, 景観性 ▼自己親和性, 交流性	▽自己親和性, 景観性

類型1	類型2	類型3	類型4
【非媒介・歴史型】 (n=32)	【接続・非歴史・狭隘型】 (n=32)	【分断・狭隘型】 (n=18)	【媒介・広大型】 (n=48)
			

【凡例】 ▲: +20%pt・+0.30点以上の差 / △: +10%pt・+0.15点以上の差 / ▽: -10%pt・-0.15点以下の差 / ▼: -20%pt・-0.30点以下の差

- | | |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| * 五井建築研究所 | * GOI Architecture & Associates. |
| ** 富山大学学術研究部芸術文化学系 講師 | ** Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama |
| *** 富山大学人文社会芸術総合研究科 大学院生 | *** Graduate of Humanities, Arts, and Social Sciences, Univ. of Toyama |
| **** バウハウス丸栄 | **** Bauhaus Maruei |
| ***** 富山大学芸術文化学部 学部生 | ***** Undergraduate, School of Art and Design, Univ. of Toyama |